令和７年度　学校評価表

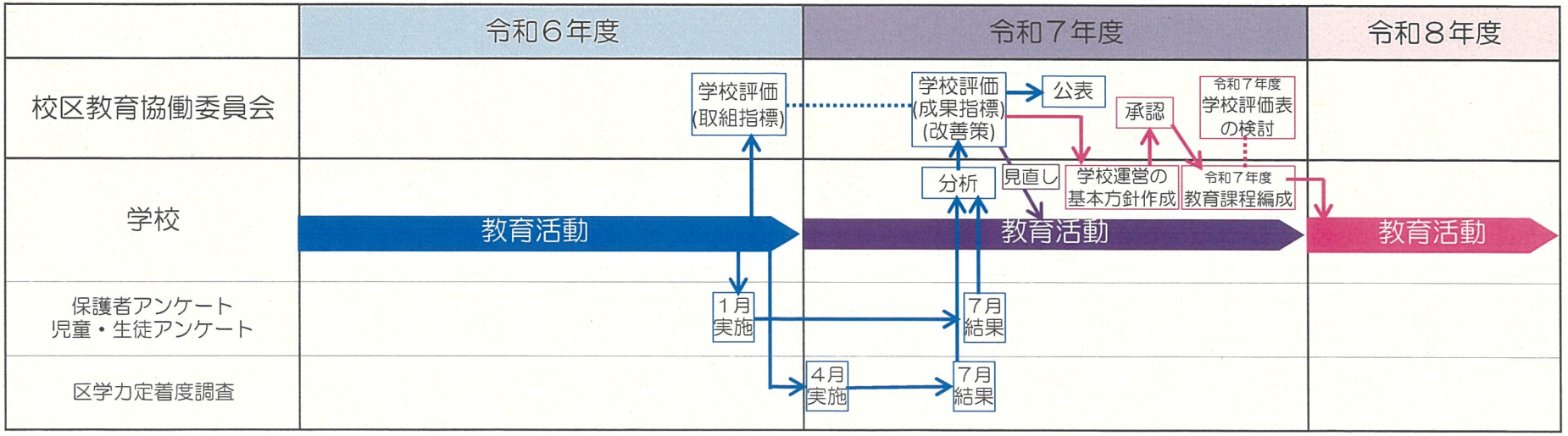
品川区立芳水小学校	校長	川原　和茂
芳水小学校校区教育協働委員会	委員長	小泉　和博

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和６年度の学校評価が令和７年度および令和８年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立芳水小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	教育目標 【よく考える子】 ◆自分から学ぶ姿勢の確立 ～どのような課題でも自力解決できる意欲と学力を付け、学ぶ大切さを基本とした自学を目指す～ ○自学自習の習慣づくり　○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり　○ICT機器の活用

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	品川区学力定着度調査の全学年・全教科で目標値を上回る。	どの学年も、全ての教科で目標値を上回っている。また、全国の平均正答率も全て上回っている。	A	今後も、区学力定着度調査の結果をもとに授業改善を行い、ねらいを明確にした授業を行い基礎・基本の定着を図る。また、知識・技能を活用し課題を解決する力が身に付くよう、個に応じた指導を充実させていく。
	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、各教員が発達段階に応じ、工夫した授業を行う。	1学期に実施した品川区学力定着度調査の結果から授業改善プランを立て、2学期以降、授業の工夫を行った。	A	
②	品川区学力定着度調査において、理科・社会の正答率を70%とする。	社会の平均正答率は72.4%で成果指標を達成している。理科は62.4%であり、7.6ポイント下回っている。特に理科は「活用」問題で52.3%と大きく下回っている。	B	児童がより既習事項を生かしそれを活用して主体的に学習できるよう、「予想を立てる→調べる（理科は実験・観察）→考察・まとめ」という学習の進め方をより意識して授業改善を行っていく。
	3～6年生において理科・社会での教科担任制に取り組み、指導内容の充実を図る。	理科・社会の教科担任制を実施することで、担当する教科の専門性を深めることができたが、知識・技能を活用し課題解決を図る授業をさらに充実させる必要がある。	B	
③	区の調査「英語学習は充実していると思いますか」の回答が70%以上とする。	結果の平均は、72.3%であった。どの学年も70%以上で成果指標を上回っている。	B	ALT、JTEを活用し、歌やチャンツだけでなくJoint Storytellinを中心とした授業のさらなる改善を図ることで、児童がより英語の学習に意欲をもてるようにしていく。また、英語教育推進校として英語学習の様子を周知していく。
	ALT、JTEを活用した授業のさらなる充実を図る。	ALT、JTEと担任が連携した授業を展開し、を中心とした年3回の授業研究を行い、指導力の向上を図った。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立芳水小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	教育目標 【やさしい子】 ◆正しい礼儀と生活規律、豊かな情操の形成 ～豊かな人間関係を築き、礼節の重視と社会性・人間性を基盤とした自律を目指す～ ○市民科学習の充実＜自己管理領域・人間関係形成領域の重点化＞

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	児童アンケート（R8.1実施）「学校やまちをよくするために行動しているか」の肯定的回答が70%以上となる。	肯定的な回答をした児童の平均は、71.4%だった。どの学年も70%を上回っているが、５年生が62.3%と成果指標を下回った。	A	・学級・学年・学校をよりよくしていこうという思いをもっている児童は多い。今後も学校をよくするために必要な活動を児童が主体的に考え実行する機会を増やすことで、充実感、達成感を味わえるようにし、行動意欲を高めていく。
	委員会・クラブ活動や縦割り班活動の充実を図る。	委員会・クラブ活動・縦割り班活動で、児童が主体的に活動を考え実行することで、充実感・達成感を味わうことができている。	A	
②	児童は、生活の約束を守り、友達と折り合いを付けながら楽しく生活している。	「友だちと仲良くすごすために、行動しているか」で肯定的回答をした児童は92.6%だった。一方で、友達と意見の相違がある時に譲れずトラブルになることがある。	B	・引き続き、全学年で市民科「自治的活動領域」の学習の充実を図ることを継続していき、道徳的実践意欲を高め、それを行動につなげていけるようにする。
	毎学期に人間関係形成に関する単元を実施し、各学期および行事を関連させながら年間を通じて自己評価を行う。	学期ごとに市民科で、自他理解・コミュニケーション力・奉仕の精神に関する授業や行事を行って、振り返りで自己評価を行った。	A	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立芳水小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標		教育目標 【元気な子】 ◆強い心と体の育成 ～自信をもち、常に努力するたくましさをもつ精神的・身体的な強さを基盤とした自立を目指す～ ○魅力ある体育学習による意欲の高揚と日常的な運動習慣の確立　○心の健康　自己肯定感の高揚		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	自ら積極的に運動している。	どの学年も、体育の学習で積極的に運動している児童がほとんどであった。	A	・年々児童数が増加しており、全学年が一斉に校庭や体育館を使うことが困難になっていくので、工夫が必要となる。 ・TA（テクニカルアドバイザー）を活用して、より個に応じた指導・支援を行えるようにする。
	月1回のロング（30分）中休みを設定し、体を動かす時間を十分確保する。	月１回ロング中休みを設定し実施したことで、児童が十分に体を動かす時間が確保された。	A	
②	年2回の長縄記録会では、全学級が1回目の記録を上回る。	25学級中、14学級が、1回目の記録を上回った。また、学年での合計は、4つの学年で昨年度を上回った。	B	・「ソフトボール投げ」「シャトルラン」では、３～６年生で平均を下回った。このことから、体育の授業で持久力や投力向上につながる運動を意図的に取り組む。また、体力向上につながる運動を家庭に周知していく。
	体力テストの結果において、半分以上の種目で全国平均を上回る。	全8種目、6学年（男女別）96項目中、平均を上回った項目は37（男子21、女子16）であった。	B	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立芳水小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標	【芳水小学校いじめ防止基本方針】 いじめは、どの学級でもどの子どもにも起こり得ることから、誰もが安心して学校生活を送れるように、全教職員が共通理解を図り、同一歩調のもと、いじめのない学級づくりにとりくんでいく。 また、学校と地域、家庭、その他の関係機関との連携も積極的に行っていく。 〇いじめを許容しない集団づくり　〇人権教育の充実

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	いじめは人権侵害行為であり、決してしてはいけないと共に、大人は決して許さないという認識をもつ。	ふれあい月間において、いじめ防止に関する授業を実施し、いじめが人権侵害であり決して許される行為ではないことを指導した。	A	・いじめは、どこでも誰にでも起こり得るという認識をもって、今後も取り組んでいく。 ・児童間のトラブルがあった際は、速やかに複数で事実確認を行い、組織的に対応し解決を図る。
	毎学期いじめを許容しない集団づくりに向けた授業を実施する。	各学級において、毎学期にいじめを許容しない授業「トリプルチェンジ」を計画的に実施し、「シンキングエラー」等、いじめを自分事として捉えて振り返らせることを行った。	A	
②	児童が自ら、友達関係の悩み事を、早期に大人に相談することができる。	毎日のデイケンやを確実に実施し、聞き取りを行うことで、児童間のトラブルや友達関係・家庭での悩みなどをキャッチすることができた。	A	今後も、デイケン等の調査ツールを確実に実施し気になる児童に聞き取りをすることで、児童のSOSのサインを見逃さずキャッチし、いじめの早期発見・認知・対応を行うとともに、児童虐待などの事案にも関係機関と連携しながら迅速に対応していく。
	デイケン、いじめDアンケート、学校風土D調査を確実に行い、児童の悩みの早期発見につなげる。	調査ツールを生活指導主幹主導で実施することでいじめの早期発見・対応につながった。小さな事案でもいじめとして認知し区へ報告した（いじめ認知件数207件）。	A	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立芳水小学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	【品川コミュニティ・スクールの進化】 地域に支えられた地域の顔となり、地域と融合する新しいコミュニティづくりに寄与する特色ある学校を目指す。 【英語教育推進校としての充実】 リタラシー指導を含めた品川区独自の英語科のカリキュラムの確実な実施により、力量維持を図る。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	品川コミュニティ・スクールDAYを校区教育協働委員会と学校が連携しながら、計画・実施をする。	5・6年生の代表委員会の児童が地域の方と、「よりよい地域のお祭り」にするために何ができるかを意見交換することができた。	A	・「品川コミュニティ・スクールDAY」では、さらに話し合いのテーマの枠を広げて児童が主体的に話し合える内容を検討していく。 ・森林環境学習は来年度、より充実した行事にしていく。 ・地域のお祭りに、児童・教職員・父親倶楽部・PTAが一丸となって、楽しく参加できたことは大きな成果であり、今後も無理のない範囲で継続していく。
	校区教育協働委員会発信の環境学習を行い、来年度以降の行事として確立する。	令和7年度は青梅の森運営協議会の方に来校していただき、5年生が体験学習を行った。	A	
	居木神社と連携し、本校と関連のある盆踊りを教わりお祭り等で披露する。	3年生が盆踊りを教わり披露した。また、4年生はお神輿体験授業を居木神社で行った。例大祭の子ども御輿では父親倶楽部の働きかけで多くの児童が参加した。	A	
②	品川区学力定着度調査の6年英語科において、区の目標値を超える。	平均正答率が83.2%であり、目標値（76.1%）を上回っている。	A	質の高いJTEの授業の成果がしっかりと表れている。特にJoint Storytellingは本校の英語科学習の大きな特色である。今後も英語教育推進校として来年度以降も英語科教育を充実させていく。
	品川区英語教育推進校として公開授業を実施する。	10月に、JTE研修会の一環として、公開授業を実施した。	A	
	英語成果発表会を実施する。	11月の学習発表会「芳水パレット」で、2・5年生が英語科のJoint Storytellingを生かした英語劇を発表した。	A	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成